



平成19(2007)年10月24日(水)発行

発行者 小浜市多田2-2 中山クリニック 院長 中山茂樹

http://www.nakayama clinic.jp

## 古代に惹かれる秋

小児科 医師 中山真里子

いつまでも夏が居座り、暑さのなかなか去らなかつた十月もさすがに下旬ともなるとようやくさわやかな秋晴れがのぞまれるようになりました。朝夕はぐんと気温も下がり、肌寒ささえ感じる今日この頃、今年の紅葉はいかがでしょう。

テレビ、新聞の伝える事は相変わらず、爽やかな秋晴れとは全くかけ離れた、胸の痛む、嫌な事件、信じたくない、信じられないといった事ばかり。心が洗われる、ホットするニュースにもっと接したいものです。

こうなると、秋にふさわしいものを自分で見つける事しかなさそうです。紅葉狩りもよし、美術館、博物館巡りもよし、スポーツもよし、等々。季節限定、期間限定のもの、あれこれ思い巡らすのは楽しいのですが、あそこは遠そう、人も多そうなどと考え出すと、おしりが重くなってしまう。思いもしぼんでゆきます。その代表がこの時期開催される“正倉院展”。心惹かれながらなかなか実現しません。今年はどんな宝物が展示されるのでしょうか。

随分前、天平美人で有名な“鳥毛立女図屏風(とりげたちおんなびょうぶ)”(※)が展示されたので、遠いもなんのその、じつと立ち止まることも許されない人の波に乗って、流されるように観たことを思い出しました。“百聞は一見に如かず”教科書で見知ってはいても本物をこの目で見たときの感動は何ものにも代え難いものでした。千数百年の時を超えて今に至るまで大切に護られてきた国宝、重要文化財ばかりの正倉院の宝物、遠くシルクロードを経て、日本にもたらされたペルシャ、インドなどの品々、気の遠くなるような手仕事の数々。時空を超え、タイムスリップしたようにその時代の息吹きが感じられ、悠久のロマンに満ちあふれています。じっくり対峙するには時間がいくらあっても足りないくらいです。が、観賞した後はぐったり、疲労を憶えました。美しいもの、素晴らしいものに触れるには、気力、体力とも充実していないと無理のようです。

秋の夜長、虫の音をバックミュージックに、一年で最も美しい月を愛でながら、(美酒に酔いしれながら)本の虫と化すのもよいかも知れません。

皆様も素敵な秋を見つけて下さい。

… … … … … … … … … …

(※) 鳥毛立女屏風 = 「樹下(じゅげ)美人図」と俗称

される絵画。天平時代(奈良時代後期、8世紀中頃)に描かれた。6扇で1畳の屏風。高さ4尺6寸(約140センチ)、幅1尺9寸1分(約579センチ)、3面は樹下に立ち、3面は岩に腰掛けている女の図。着衣、頭髪、木の葉に彩色の代わりにキジ(ヤマドリ)の羽毛が貼ってある。

唐画を元に描かれたもの。但し、5扇の絵の裏に日本の墨書があり、日本製と判断されている。

### 1歳5ヶ月のイカリ(ガマン)

看護師 岡本 八重子

大阪にいる孫も、もう1歳5ヶ月、当院へ検診などで来られる赤ちゃんを見て、もうこれ位になっているのかな、等と想像しています。

10月の初めに帰ってきてお祭りに行った時の事、孫にしてみれば出店のオモチャはあれもこれも興味シンシン、手に持って遊びたいものばかり、あっち触りこっち触り、私たちは壊さないかとヒヤヒヤでした。親が見かねて“それも家にあるでしょう”と、手に取るものを次々とダメと言った時、孫は両手を握り、ウーンと力を込めて、踏ん張ったのです。

その時の孫の所作があまりにも可愛く、今思い出しても笑ってしまいますが、孫なりのイカリ(ガマン)だったんでしょう。自分の思いがもう表現できるようになり、知恵が段々についてきたんだと改めてびっくり、“人生は表現である”、という言葉思い出しました。

言葉はまだまだですが、少し話せるようになった時、おばあちゃん、バーバー、グランドマザー、さて、どう呼ばせようかと思案中です。

### 数字で見る「医師不足」

(後記)

経済協力開発機構(OECD)によると、人口1000人当たりの医師数は加盟30カ国中27位の2.0人(2004年、OECD平均は3人)。一方、年間受診回数は国民1人当たり13.8回(同)でデータがある28カ国中で最多。少ない医師が多くの診察を受け持つ実情が浮かぶ。

当院ミニギャラリーでは今より藤田京子さん(小浜市甲ヶ崎)の日本画です。柔らかい感触を味わって下さい。

特に地方で顕著だ。厚生労働省の04年調査によると、人口10万人に対する医師数の全国平均は201人。東京、大阪は上回ったが、青森で164人、岩手で168人と東北地方を中心に医師不足にあえぐ。

申日 10/12